

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽光小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	56人	算数	56人	理科	56人
第5学年	国語	43人	算数	43人	理科	43人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

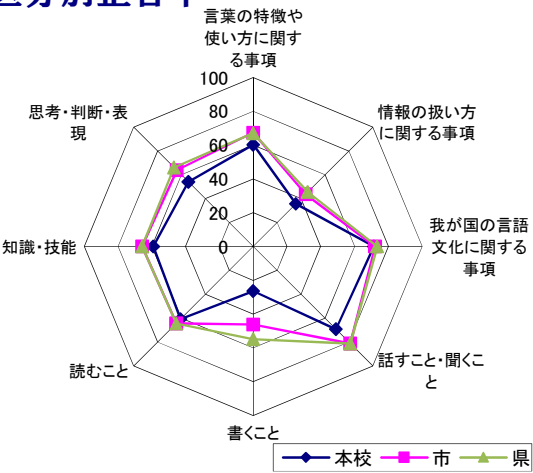
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽光小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	60.3	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	35.7	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	71.4	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	69.2	81.2	81.2
	書くこと	26.3	46.2	54.9
	読むこと	60.7	64.3	64.5
観点	知識・技能	59.1	65.7	65.7
	思考・判断・表現	54.2	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

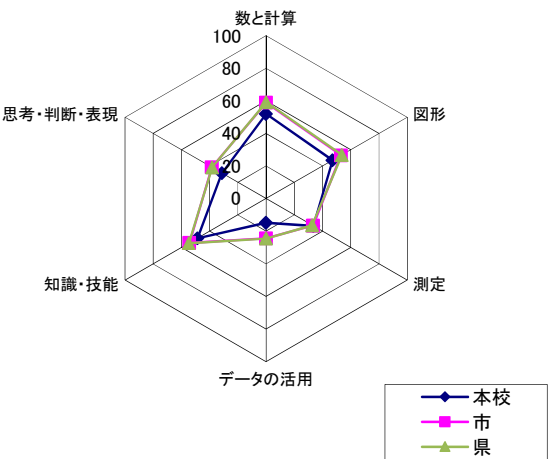
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	本校は、市や県の平均正答率より低い。 ○ローマ字を読む問題は、市や県の平均より7ポイント以上上回っている。 ●漢字の読み書きの問題は、市や県の平均を大きく下回っているものが多い。	・タブレットへのローマ字入力が功を奏し、ローマ字は全体的によく身に付いている。 ・漢字の読み書きについては、50問テストや小テストを導入することにより、漢字練習が児童の生活習慣に根付くよう今後も指導を継続していく。
情報の扱い方にに関する事項	本校は、市や県の平均正答率より低い。 ●国語辞典の使い方についての正答率が市の平均を7ポイント下回っている。	・国語辞典の使い方は、漢字辞典の使い方の学習でも復習したが、まだ定着していない。普段の学習においても言語の意味調べを行ったり、自主学習での使い方を紹介したりと、繰り返し学習に活用していく。
我が国の言語文化にに関する事項	本校は、市や県の平均正答率より低い。 ○漢字のへんやつくりについては、市や県の平均とほぼ同じである。	・漢字のへんがもつ意味を考えることで、同じへんをもつ漢字を関連付けて覚えるようにしていく。また、漢字のへんやつくりについて、新出漢字の学習や漢字辞典を使う際に繰り返し意識させ、指導していく。
話すこと・聞くこと	本校は、市や県の平均正答率より低い。 ●自分の考えを、理由を挙げながらまとめる問題は、市や県の平均を下回っている。	・各教科において、話し合い活動を充実させ、活動の際には、相手の話したいことをしっかり捉えるために短い言葉でメモを取る習慣をつけるよう指導する。
書くこと	本校は、市や県の平均正答率より低い。 ●条件に合わせて、理由や事例を明確にした文章を書く問題では、条件を満たしていない解答が多く、無解答の児童が30.4%いる。	・国語の「書く」単元や他の教科のまとめる学習においても、自分の考えを書く場面をつくるようにする。新聞作りや手紙を書く学習を通して、条件に合った文章を書くことを繰り返し指導する。 ・書くことへの苦手意識を減らしていくために、日記を自主学習に取り入れたり、行事等で感想を書いたりする機会を増やしていく。
読むこと	本校は、市や県の平均正答率より低い。 ○物語文の読み取りについて、叙述を基に場面の様子や登場人物の気持ちをつまえる問題は、市や県の平均を上回っている。 ●説明文の情報と情報との関係について理解し中心となる語や文を見つけて要約する問題では、市や県の平均を下回り、無回答の児童が26.8%いる。	・読書を好む児童が多く、図書室で本を借りる児童も多いが、内容について話し合ったり、紹介し合ったりする活動は少ない。国語や他の教科の調べ学習において、いろいろなジャンルの図書を利用することを推し進め、家読カードに記録したり、紹介し合う機会を設定したりしていく。

宇都宮市立陽光小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	52.0	58.9	59.2
	図形	47.0	53.0	53.7
	測定	33.5	33.1	32.6
	データの活用	14.7	24.4	24.6
観点	知識・技能	48.6	54.3	54.7
	思考・判断・表現	31.3	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

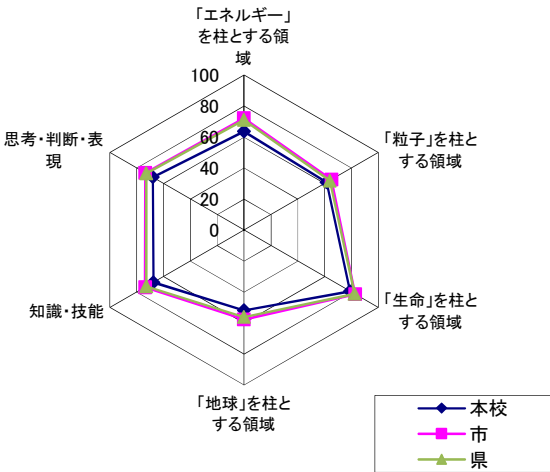
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校は、市や県の平均正答率より低い。 ○たし算・ひき算の問題は、県や市の平均正答率と比べて同等か上回っているものが多い。 ●小数のしくみや表し方を問う問題の平均正答率が、県や市と比べて大きく下回っている。	・小数の概念は、来年度5年生の算数において必須となるため、反復練習を取り入れ、定着させる必要がある。朝の学習や授業開始時などの時間を利用してプリント等に取り組ませる。
図形	本校は、市や県の平均正答率より低い。 ○二等辺三角形の性質についての問題では、県や市の平均正答率を上回っている。 ●円の性質を利用して正三角形を作図する問題は、県や市の平均正答率と比べて下回っている。	・図形の学習では、具体物を用いた視覚的・感覚的な授業を行っていく。 ・作図や測定に使う用具の使い方や手順を丁寧に指導し、作図や測定を数多く児童に取り組ませる。
測定	本校は、市や県の平均正答率とほぼ同等である。 ○時刻や時間の単位変換をする問題の平均正答率が、県や市と比べて上回っている。 ○ものの重さを量ったり、重さの大小を比較したりする問題の平均正答率が、県や市と比べて上回っている。 ●地図から2つの道のりを読み取り、差を求める問題に課題が見られる。	・時間や重さについては、知識に差があるため、正しく答えられなかった児童には生活と結び付けながら丁寧に指導していく。 ・地図を用いながら指導し、今後も日常化に努めていく。また、3年生の復習が必要となるため、タブレットのドリルを活用するなど、計算の方法を確認しながら基礎をしっかりと定着させていく。
データの活用	本校は、市や県の平均正答率より低い。 ●目盛りのつけ方が異なる2つのグラフについて数の比べ方を説明する問題の平均正答率が、県や市と比べて下回っている。	・問題文からの情報量が多く、理解し処理するのに時間がかかり、答えまでたどり着けない回答が多く見られた。問題の読み取り方、グラフの見方を反復練習する指導を行っていく。また、資料から読み取れることを話し合う活動の場などを設定していく。

宇都宮市立陽光小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	63.6	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	61.6	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	79.0	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	51.8	57.7	56.2
観点	知識・技能	67.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	68.0	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ○風と物の動く関係、磁石につくもの、電気を通すものなどの問題は、市や県と同等または上回っている。 ●実験の結果から考える問題が、市や県と比べ大きく下回っている。特に、電気の回路、ゴムを伸ばす距離と車の動く距離の関係などの問題は、市や県と比べ、10ポイント以上下回っている。日光を集めたときの温かさや明るさ、音の大小と震え方の違いの	・実験の結果から考えることに関しては、まとめをした際に自分の言葉でまとめることをし、身近な生活の中のことに関連付けて振り返りをしていく。 ・電気や磁石についての興味関心が持続できるよう、4年生の関わりのある単元でも実験を中心に授業を進めていく。 ・タブレット端末を活用し、もう一度3学年の内容を復習するように指導する。
「粒子」を柱とする領域	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ○形を変えたものの重さの問題の正答率は、市や県を上回っている。 ●体積が同じでも種類によって重さが違う問題では、正答率が市や県を下回っている。	・実験の方法、内容をしっかりと確認させ、実験結果をしっかりと確認させる。 ・実験の内容については、実際に体験してみるなどの体験的な学習を取り入れ、実際に確認しながら理解を深めるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ○昆虫の体のつくりについての問題の正答率は、市や県を上回っている。 ●虫眼鏡の使い方、植物の一生について、昆虫の住処についての問題において、市や県の平均を下回っている。特に、記録カードから生き物の共通点を見いだす問題の正答率が、市や県と比較して10ポイント以上下回っている。	・季節の観察の中で、虫や草花の観察を意識して多く取り上げ、虫眼鏡の使い方も確認しながら記録するようにする。 ・植物の観察では、植物の一生を実際に確認しながら記録し、他の植物との共通点や相違点について理解を深めていく。 ・昆虫の観察では、観察を通して、生き物の体のつくりや住処、育ち方について調べるなどして、知識、理解を深めていく。
「地球」を柱とする領域	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ○太陽と影の関係の問題の平均正解率を比較すると、県と同等であった。また、方位磁針の使い方に関しては、県の平均正答率を上回っている。 ●太陽の位置の変化を方位で答える問題の正解率は41.1%と市や県と比較してポイント10ポイント以上下回っている。	・4年生の単元「月や星の動き」の学習の際に、3年時の既習内容と関連付けて授業を展開し、既習内容の確認を図るようにする。 ・児童が、分かりやすく考えられるように実際に体験してみるなどの体験的な学習を取り入れ、自分で確認しながら進めるようにしていく。

宇都宮市立陽光小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業を集中して受けている」また、「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」についての肯定割合は90%を超えており、いずれも市や県の割合を上回っている。授業で学ぶことが明確であり、学習したことをきちんとまとめていくことの積み重ねが集中して学習することにつながっていると考えられる。今後も目標とまとめをしっかりと行う学習活動を継続していきたい。

○「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」についての肯定割合は約95%で市や県の割合を上回っている。子どもたちは、当番活動や係活動のめあてを意識しながら、お互いに声を掛け合って、責任をもって活動に取り組んでいる。

○「毎朝、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時くくにねている」の肯定割合は95%以上、「早ね、早起きを心がけている」の肯定割合は約91%で、いずれも市や県の割合を上回っている。特に、早寝、早起き、決まった時刻に寝るという割合は、市や県を大きく上回っている。これからも家庭での生活習慣を十分に身に付けていけるように、保健だよりや全学年だより等を通して家庭への啓発活動も継続していきたい。

○算数、理科の学習が好きな児童の割合が市や県を上回っており、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている児童の割合も市や県を上回っていた。算数や理科に対しての興味関心が高いので、身近な生活に結び付けて実施するなど、今後も児童が意欲的に活動できる授業を実施していく。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか(学習じゅくや家庭教師をふくむ)」で30分以上と回答した割合は約66%で、市や県の割合を下回っている。4年生の家庭学習の目安の時間である40分を意識しながら学習する習慣が身に付くよう、引き続き陽光スタンダードをもとに指導を行い、家庭学習の習慣化を図りたい。

●「ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしていますか(テレビゲームはのぞく)」では、約33%の児童が4時間以上に当てはまり、市や県の割合を大きく上回っている。この結果には、タブレットを使う学習時間の増加も考えられるので、情報端末を使うときのルールや使用時間について確認し、必要に応じて指導を行いたい。

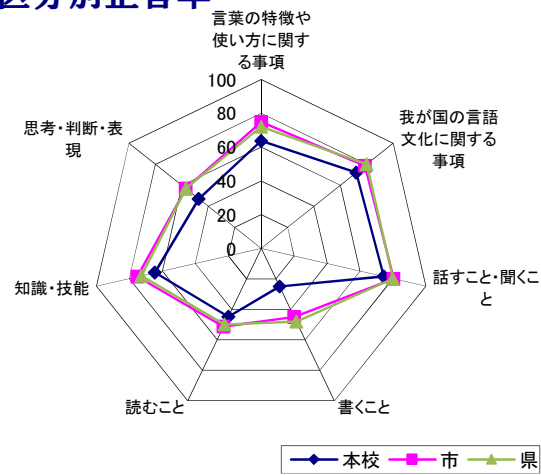
●「学校の授業以外に、ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画雑誌は除く)」「1か月に、何冊くらい本を読みますか。(教科書や参考書、漫画雑誌は除く)」の質問に対し、全く(1冊)読まないの割合が、市や県の割合を上回っている。朝の読書の時間や、週1回の図書室に行く時間を利用し、読書をすることを奨励し、本に触れる時間を増やしていく。

●「ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを読みますか(けい帯電話やスマートフォンを使ってゲームする時間はのぞく)」では、約16%の児童が3時間以上に当てはまり、市や県の割合を5ポイント以上上回っている。学級懇談会や全学年だよりを通して、望ましい使用時間について家庭への啓発を継続していきたい。

宇都宮市立陽光小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	63.7	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	72.1	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	74.4	80.4	80.0
	書くこと	25.0	45.1	48.0
	読むこと	44.8	51.3	50.0
観点	知識・技能	64.5	75.2	72.8
	思考・判断・表現	47.2	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

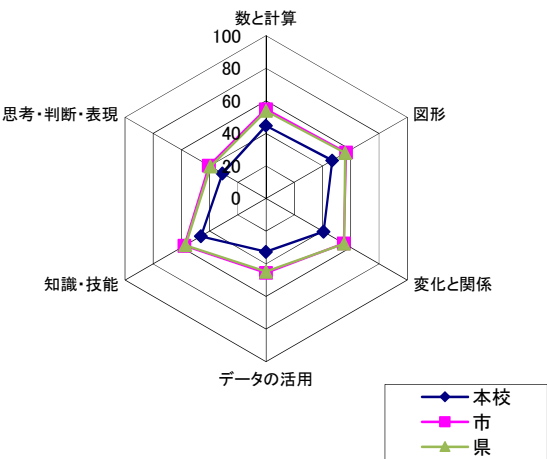
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ●漢字は、読みについては正答率が高めだが、書くことは低くなっている。 ●修飾語について、体言を修飾するものと用言を修飾するものの違いについての理解が低い。	・漢字の学習では、日頃より書き順や字形に気を付けて書くようにさせ、単元テストや小テストをこまめに実施することによって、知識の定着が図れるようにしていく。また、他教科においても、既習の漢字を使って読み書きをするように繰り返し声をかけていく。 ・修飾語の学習では、類題などを繰り返し学習することで定着が図れるように指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	本年度、該当する問題なし。	・今後も、辞書を使って調べることに慣れさせていく。また、家庭でも辞書を使って学習することを推奨していく。
我が国の言語文化に関する事項	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ●慣用句の意味を理解して、それを自分の表現に活用することができていない。	・慣用句やことわざなどを使った文作りをグループやクラス全体で行い、たくさんの例文に触れる中で、正しい使い方に慣れ親しめるようにしていく。
話すこと・聞くこと	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えることに課題が見られる。 ●話し合いで出た考えをもとに、自分の考えをまとめて記述することに課題が見られる。	・話を聞くときに、メモを取ったり、短い言葉でまとめたりする活動を取り入れていく。 ・話し合い活動の中で、自分の意見と友達の意見を比べて、共通点や相違点に気付かせる。 ・意見を1つにまとめたり、広げたりする活動を日常的に取り入れていく。
書くこと	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ●段落の役割についての理解に不十分さが見られる。 ●資料の読み取りが、自分の考えに活かせていない。 ●内容の中心を明確にすることに課題が見られる。	・日頃から、日記や振り返りなど短い文章を目的に合わせて書く機会を設け、文を書くことに慣れるようにしたり、よく書けたものを提示したりしながら指導していく。
読むこと	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ●物語文、説明文ともに市や県の正答率の傾向と同等ではあるが、気持ちの変化や叙述を基に考える問題については低く、課題が見られる。	・物語文では、登場人物の気持ちの変化について、文の内容を読み取ったり、具体的に想像したりしながら考える経験を授業の中で取り入れていく。 ・説明文については、段落ごとに要旨をまとめたり、叙述を基に相互関係を捉えたりしながら読み取りを進めるようにする。 ・文章を読んで感じたことや分かったことを友達と共有できる場をつくるようにしていく。

宇都宮市立陽光小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	44.7	54.9	53.7
	図形	46.9	56.6	56.1
	変化と関係	40.7	55.1	55.2
	データの活用	32.6	45.5	44.8
観点	知識・技能	46.2	57.8	57.2
	思考・判断・表現	30.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

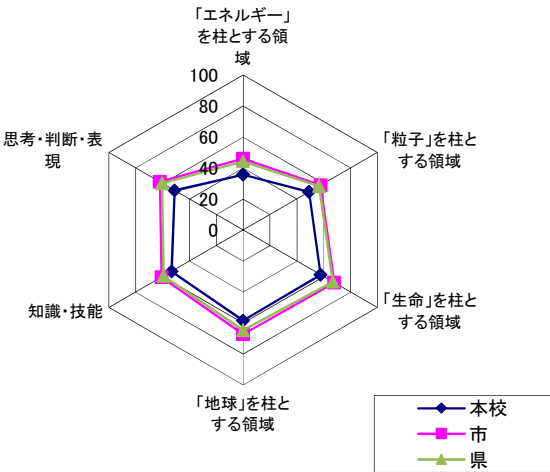
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ●数直線上の値を分数で表す問題や小数と分数の大きさを比べる問題に課題が見られる。 ●余りのある3けた÷2けた、小数第1位÷整数の計算問題は、県や市の平均正答率より大きく下回っている。	・大きな数のしくみ、小数の仕組み、分数のしくみを確認し、数直線の目盛りを読み取らせながら大きさを比べ、実感を伴うように指導する。 ・計算の結果を適切に求めるためには、計算の手順を理解するだけでなく、場面や状況に応じて計算の結果を見積もる経験を豊かにすることが大切である。余りのある3けた÷2けた、小数第1位÷整数の計算問題については、計算の手順を確認し、反復練習をさせていく。
図形	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ●示された面積の求め方をもとに正しい式を選ぶ問題に課題が見られる。 ●180°よりも大きい角の大きさを求めることに課題が見られる。 ●平行四辺形の性質に基づいて作図をする問題に課題が見られる。	・面積の求め方について復習し、身近にあるものの面積をどのように求めたらよいかを話し合う機会を増やしていく。 ・誤答については、角の測定において普段から測定する角の大きさがどの角であるのかを意識せず、分度器の目盛りの数値をそのまま読んでいることが考えられるので、この設問をやり直すことで180°や360°を基に分度器を用いることを学び直させる。 ・本設問においては、平行四辺形の「向かい合う辺の長さは等しい」という性質をもとに作図をするように求められている。作図の指導に当たっては、作図の手順を形式的に指導するのではなく、図形の特徴と対応させて理解させるようにする。
変化と関係	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ●ともなって変わる2つの数量の関係を式に表すことや割合を使った比べ方を説明することに課題が見られる。	・表を縦に見たり横に見たりして、伴って変わる2つの数量の関係の中から規則性を見つけ出す活動を丁寧に指導していく。
データの活用	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ●表とグラフから読み取ったことを式にすることに課題が見られる。 ●グラフから正しく変化の様子を読み取り、説明することに課題が見られる。	・グラフや表を読み取る活動では、算数の授業のみに留まらず、社会の統計や理科の実験など複数の教科で必要な力である。様々な場面で見方・考え方を横断的に養いながら学習活動を充実させたい。

宇都宮市立陽光小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	35.7	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	49.1	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	57.7	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	58.4	67.2	64.6
観点	知識・技能	53.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	51.2	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	本校は、市や県の平均正答率を大きく下回っている。 ●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、ふれ具合が電流の大きさを表していることについての問題では、市の平均と比べて約17ポイント下回っている。	・電流の実験など具体的な操作を通して実感を伴った理解をするために、グループの実験の中で個人が器具を操作する時間を確保していくなど指導の改善を図る。 ・AIDリルを活用して繰り返し問題を解いたり、1人1台端末で動画視聴や教科書の資料を活用して視覚的効果を生かした学習を進められるようにしたりするなど学習の仕方を指導する。
「粒子」を柱とする領域	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ○とじこめた空気の性質についての問題では、市の平均と比べて約5ポイント上回っている。 ○湯気と水蒸気の違いについての問題では、市の平均と比べて約10ポイント上回っている。 ●温度と体積についての問題では、市の平均と比べてどれも大きく下回っている。金属を温めたときの体積の変化と身近な事象を関連付ける問題では、市の平均と比べて約24ポイント下回っている。	・無回答の割合も多いことから、予想や結果、考察を書く活動を多くの実験で取り入れ、理論的な思考を整理して記述できる力をつけさせる。 ・学習したことと実生活が結び付くことを考える機会を設けることで、実感を伴った理解を深める。
「生命」を柱とする領域	本校は、市や県の平均正答率を大きく下回っている。 ●季節と植物の様子についての問題では、市の平均と比べて約17ポイント下回っている。	・学習内容と日常生活の関連を重視した活動を意図的に設定することで、習得した知識・技能を活用して問題を解決する力を高めさせる。 ・実際に植物を育てたり、動画教材などを活用したりして、観察・体験を通し、実感を伴って理解できるように指導する。 ・低学年の生活科と関連付けることで、過去の学習を生かした知識の定着を図るよう、学年間の見通しをもった指導をする。
「地球」を柱とする領域	本校は、市や県の平均正答率を下回っている。 ○星の色についての問題では、市の平均と比べて約4ポイント上回っている。 ●気温の測り方についての問題では、市の平均と比べて約18ポイント下回っている。 ●月の動き方についての問題では、市の平均と比べて約21ポイント下回っている。	・気温の測り方など観察や実験の基礎となる器具の操作やそのポイントについては、どの学年でも丁寧に指導をし、学校全体として定着を図る。 ・夜に観察が必要なものがあるため、家庭のとの連携を図り、学習内容の定着を図る。また、動画教材を利用したり、ボールなどを使用した簡単な実験を通して、学習内容の確認(まとめとして)をすることで理解を深めさせる。

宇都宮市立陽光小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「家で、学校の宿題をしている。」の肯定割合は93%以上であり、家庭学習を行う習慣がついてきている。一方で、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している。」の肯定割合は67%に留まり、学習したことがその場限りになってしまっていることが伺える。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役立つと思う。」の肯定割合は100%であり、勉強する意味や必要性を感じていると考えられる。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定割合は65%で、市や県の肯定割合より高いが、苦手意識をもつ児童もまだ多い。「クラスは、発言しやすい雰囲気である」が肯定割合も95%という実態から、今後も、発言しやすい雰囲気づくりも大切にしていきたい。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのかまりなどを決めていると思う」の肯定割合は95%で、県の肯定割合より8ポイントほど高い。自分たちの学級のことを考えているという意識をもっている児童が多いことが伺える。

●しかし、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定割合は78%となっている。児童自身がもっと学級の組織やきまりなどに積極的に関わる機会を設けることで、学級の中で役に立っていると感じ、学級が自分の居場所であるという思いになるようにしていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり聞いたりしていますか」の項目では、26%の児童が4時間以上と回答しており、県と比べて9ポイント近く高い値となっている。同じく「テレビゲーム」は21%（県と比べて6ポイント高い）、と、電子機器を扱う時間が長い傾向がある。電子機器が一概に悪いものというわけではないが、平日の限られた家庭での時間を有効に使えるよう、計画や見通しを立てた利用を促していく必要があると考えられる。

宇都宮市立陽光小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の定着と読解力の育成	・問題文の意図を捉える力を全教科・領域で育てる。その手立てとして、問題文にアンダーラインを引かせたり、ペアで問い直しを行ったりする機会を設定する。	・「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問項目では、肯定割合が95%以上であり、学習の必要性は、自分の将来に関連付けて概ね理解している。 ・読書を好む児童も多く、物語の本を図書室で借りる児童が多い。しかし、「問題をとく時間は十分でしたか」の質問項目では、「足りなかった」「やや足りなかった」との回答が国語と算数で約4割ほどあり、問題文を読み取る力の不足もうかがえる。
・体験活動の充実(実験・生活体験)	・事前に調べ学習を行い、基本的な実験器具の使い方を予習する。長期休みを利用して、自然体験を推奨する。	・理科の学習は、観察や実験に関わる問題において県の平均より低めである。長期休みを利用して、自然体験を推奨したり、タブレットを活用し、事前に実験の調べ学習を取り入れたりするなど、児童が意欲的に学習に取り組めるよう指導する。
・家庭学習の指導の充実	・児童に宿題だけでなく、家庭学習のヒント集を利用した自主学習を勧める。教員だけでなく、保護者にもチェックをお願いする。	・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」についての肯定割合は、市や県の割合を上回っており、家庭での学習習慣について一定の成果を得ることができた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎・基本の定着が不十分な部分が見られた。	・基礎力を身に付ける朝の学習の時間の確保 ・ICTの活用	・朝の学習15分間を集中して取り組ませる。 ・AIDリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。
・限られた時間で文章を理解し、考えをもったり表現したりすることが苦手な児童が多い。	・活用問題への慣れ	・活用問題を準備し、応用問題にも慣れるようにする。
・言語活動(書く活動)を苦手とする児童が多い。	・言語活動の充実(書く活動の工夫) ・授業中にめあてを明確に示し、振り返りを確実に行う。	・低学年は文字慣れと視写、中学年は読書週間と行事作文、高学年はに文脈を捉えた感想交換と意見文に触れるようにさせる。 ・本時のめあてに対するまとめを、自分の言葉で書く時間を設けるようにする。